

# 作品・俳優の「将来性」に投資

米国には「映画先物」とも呼ぶべき商品を上場している取引所があります。

「ハリウッド証券取引所（HSX）」がそれ。現金のやり取りはないものの、取引の成功で仮想通貨「ハリウッドダラー（H\$）」をためた投資家は、その成果をオリジナルTシャツなどさまざまなグッズに交換できる仕組みです。とはいえHSXはただのゲームではありません。HSXの運営会社はすでに「本物」の取引所を設立しており、映画先物上場の認可申請を米商品先物取引委員会（CFTC）に提出しているのです。

## 「予測市場」実践の場

映画先物では、映画や俳優を株式に見立て、その将来性に投資をします。例えばクリント・イーストウッド監督の「グラン・トリノ」は2009年1月の公開（日本では同年4月）からわずか2週間で9700万ドル（約86億円）の興行成績（映画館でのチケット売り上げ）を上げるヒットを飛ばしましたが、公開前からその将来性を見越して先物を買っていたら大もうけをしていたはずですよ。

もちろん前評判だけで「不入り」になることもあり得ます。その場合には「カラ売り」をしていた投資家の勝ちで、封切り後に株価が十分下がったところで買い戻せば利益を得られます。



映画の町を見下ろす丘に立つ「HOLLYWOOD」の看板  
＝米ロサンゼルス（ブルームバーグ）

グラン・トリノの場合、封切り後かなり早い段階から、最終収益は2億ドルに達すると予想されていました。内訳は海外興行やDVD販売、グッズのライセンス料などですが、その根拠は封切りから4週間の興行収入が総収入の85%を弾きだすとの統計に基づいています。従って映画先物は封切り数カ月前から封切り後数週間にかけて取引が盛り上がるのです。

実は、HSXは「みんなの意見は案外正しい」との前提に立ち不確かな未来を推し量る「予測市場」（prediction market）と呼ばれるシステムの実践の場です。そしてその効果は、HSXの

「オプション市場」で04～07年度にかけ取引されたアカデミー賞の部門別受賞作の予想が、33の受賞対象のうち29を的中させたことで証明されているというのです。

## 関係者は保険が可能に

みんなの意見的中率は9割一。ということは、もしHSXが本物の取引所として機能していれば、莫大な投資（グラン・トリノの制作費は3300万ドル）で知られる映画産業の関係者は、あらかじめ映画先物を売ることによって将来の損失に保険（ヘッジ）をかけることが可能になりま

## 新・商品先物入門

②7

日本商品先物振興協会

小島 栄一

す。

もちろん映画産業が有する潜在的なヘッジニーズは規模的に破格であり、加えて映画という媒体、そして出演者への親近感から、流動性の提供者たる投資家の市場参加は比較的容易に進むと予測されています。

こうしたことからHSXの親会社である大手金融サービス会社のキャンター・フィッツ・ジェラルド社は、昨年11月に映画先物（正式には「国内興行収入取引」）の上場を申請。今年第4四半期中には認可が下りる見込みとしています。

ところで先物取引の歴史をひもとくと、江戸時代の日本、天下の台所は大坂の堂島に行きつきます。その世界初となる先物市場「堂島米会所・帳会米市場」の開設を公許（1730年）したのは徳川8代将軍の吉宗公。享保の改革の一環で、当時、現金と同様に扱われていたコメの価格安定が目的でした。そしてその実務にあたったのが、かの大岡越前守です。

近い将来、「暴れん坊将軍」や「大岡越前」がHSXに上場される日がくるかもしれません。